日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

94.8.4 No. 4039

怒りの声 不当な労務政策を糾弾！「塩漬け」を許さない

六月三日の千葉支社の直営売店廃止・新設提案に関し、怒り心頭に発している。

日刊既報のとおり、運転では全く要員が不足してしまっている。現在組合の追及によって団交で明らかにされた現場の要員不足は、一〇名となっている。

千葉支社は、一三名の見習いを運転士に登用（この登用自身、強制配転者を一切無視してJR総連組合員のみ新規に登用した不当な登用であるが）したと強弁する。しかし、本年度中、外勤運転士で一三名、本線運転士で五名の五五才到達者が出る。新規登用者など五五才到達者の補充にも追いつかないのである。

しかも当局は、団交において営業には相当数の過員があると言明している。しかし、営業に強制配転された仲間について、運転職場には一切帰さず、売店や駅などに塩漬けにしたままという不当な労務政策を未だ続けているのである。断じて許されない。今回は、廃止予定となっている配転者の意見を聞いた。

配転問題の解決はJR総連解体ありき

津田沼駅売店　佐藤　博

労務対策のために作った売店を廃止することは、大いにけっこうだが、国鉄時代に強制配属させられた「人材活用センター収容」のレッテルを外すことはまた別のことである。

われわれに対しての次の配転先は、良くても売店しかない。

運転士から外されてから、「人活センター」「無人駅の清掃」「平井駅ミルクスタンド」「浜野駅売店」「津田沼駅売店」と八年間に五箇所も職場を変えられた。八月中旬売店は廃止される。しかし次の配転先については未だ展望すら明らかにされていない。駅の当局を通し、配転先の展望を明らかにしろと言っているが、「支社では売店の廃止すら解らないと言っている」という回答しか返ってこない始末である。全く不当である。

現在JR東労組所属の車掌が次々と運転士となっている。われわれは塩漬けとなったまま。結局、われわれの配転問題は、JR総連松崎の問題であり、JR総連を解体するしか展望が出てこない。

この間、われわれの配転問題に関し、駅当局や支社営業開発部事業課に対し「JR当局とJR総連による労務対策ではないか」と抗議すると全く否定しない。当局内部もJR総連への対応をめぐり、分裂しはじめているのではないか。

原職復帰を目指して闘い抜く。

一日も早く原職復帰を！

長浦駅売店　杉本則夫

うちの売店が廃止になることは、日刊動労千葉を読んで知った。駅の当局に「こんな話があるけれどどうなんだ」と質問したら、駅から支社に問い合わせたが支社は「解らない」との一点張りである。

私は、津田沼電車区（当時）から「人材活用センター」「無人駅の清掃」「本千葉駅ミルクスタンド」「長浦駅売店」と四箇所のたらい回しとなっている。配転先の展望も明らかにされていない。長浦駅売店は、一日の売り上げが八～九万円、結局採算が取れない労務対策のための売店だった。運転士が足りなくなっているのなら、強制配転者を一刻も早く原職に復帰すべきである。

8・7狭山集会に結集しよう！！

七月二五日、司法当局は、石川一雄さんの「仮釈放を行う」こと発表した。

現在東京高裁において闘われている再審査請求訴訟は、事件当時、石川さん宅を家宅捜索を担当した警察官が「脅迫状を書いたとする万年筆は一回目の家宅捜索では石川さん宅にはなかった」という証言をするなど数々の新証拠が狭山弁護団から提出されているにも関わらず、一切受けとめようとせず「再審査請求棄却」の動きを強めている。

まさに「仮釈放」と「再審棄却」とは表裏一体の攻撃としてある。石川さんの無実を一切認めることなく「仮釈放」で犯人の汚名を着せたまま、「再審査請求」を棄却し、狭山闘争そのものを解体しようとしているのである。

こうした狭山闘争破壊を断じ許さない闘いを作り出すために、部落解放同盟全国連合会は、八・七日千葉市中央公園において「狭山闘争勝利、部落解放関東ブロック集会」を開催する。全組合員は解放同盟全国連の呼び掛けに答え、八・七集会に結集しよう！

時・8月7日(日) 13時　場所・千葉映公園